

令和4年度
第1回静岡県企業局経営評価委員会
(資料)

	頁
【報告事項】	
1 令和3年度企業局3会計決算概要……………	1
2 工業用水道事業の取組状況……………	13
3 水道施設の耐震対策……………	17
4 水道施設における早期復旧の取組強化……………	19
5 地域振興整備事業（工業用地造成事業）の今後の取組方針……………	21
6 地域振興整備事業（工業用地造成事業）の状況……………	23
7 企業局経営戦略（第4期中期経営計画）の進捗状況(4年間の実績評価)	別冊

(参考資料)

- ・企業局概要（令和4年度）
- ・創意工夫・コスト削減事例集
- ・水道経営の”^{さきがけ}魁”事例集

1 令和3年度 企業局3会計決算概要

(経営課)

1 工業用水道事業会計

(1) 決算の状況及び今後の見通し

- ・ 総収益は、未利用地の売却等により、前年度から 368 百万円増の 4,521 百万円となった。
- ・ 総費用は、維持管理費の増加等により、前年度から 52 百万円増の 4,171 百万円となった。
- ・ この結果、損益は前年度から 316 百万円増の 350 百万円の黒字となった。
- ・ 令和4年度は、富士川工水と東駿河湾工水の統合に伴い実施した料金改定により損益の改善が見込まれる。

(2) 決算の概要

(単位:百万円)

		R3	R2	増 減	備 考
給水事業所数		339	339	0	増3社、減3社
有収水量(万m ³)		22,814	24,543	△ 1,729	
収 益 的 収 支	総収益 A	4,521	4,153	368	
	給水収益	3,853	3,883	△ 30	大口受水企業の利用廃止による減等
	その他	286	270	16	管理受託収益の増
	特別利益	382	-	皆増	未利用地売却(西遠)
	総費用 B	4,171	4,119	52	
	事務費等	593	643	△ 50	
	維持管理費	1,980	1,828	152	委託料の増
	減価償却費等	1,499	1,533	△ 34	償却対象資産の減
	支払利息	98	115	△ 17	企業債(高利率借入)償還の終了による減
	特別損失	1	-	皆増	
損益 A-B		350	34	316	
資 本 的 支	資本的収入	2,626	1,752	874	投資有価証券の満期償還
	資本的支出	3,863	3,949	△ 86	
	建設改良費	1,706	2,185	△ 479	
	投資	1,200	803	397	
	その他	957	961	△ 4	
収支差引		△ 1,237	△ 2,197	960	
資 金	当年度	450	△ 786	1,236	
	累 積	3,054	2,604	450	
	累積(投資含む)	8,236	7,795	441	

【参考：事業別の決算状況】

(単位:百万円)

		柿田川	富士川	東駿河湾	静 清	中 遠	西 遠	湖 西	合計
給水事業所数		4	10	95	73	56	80	21	339
有収水量(万m ³)		3,654	1,049	13,292	1,874	1,250	1,098	597	22,814
収 益 的 支	総収益 A	400	112	2,049	433	490	828	209	4,521
	総費用 B	283	252	2,229	398	423	381	205	4,171
	損益 C=A-B	117	△ 140	△ 180	35	67	447	4	350
	前年度損益 D	83	△ 85	△ 73	41	36	28	4	34
	増減 E=C-D	34	△ 55	△ 107	△ 6	31	419	0	316

2 水道事業会計

(1) 決算の状況及び今後の見通し

- ・ 総収益は、給水収益は前年と同額、有価証券利息の減少等により、前年度から32百万円減の6,496百万円となった。
- ・ 総費用は、維持管理費や企業債利息の減少等により、前年度から13百万円減の5,442百万円となった。
- ・ この結果、損益は前年度から19百万円減の1,054百万円の黒字となった。
- ・ 経営は比較的安定しているものの、経営改善の取組を推進し、運営コストの削減に努めていく。

(2) 決算の概要

(単位:百万円)

		R3	R2	増 減	備 考
給水市町数		10	10	0	
有収水量(万m ³)		7,718	7,709	9	
収 益 的 収 支	総収益 A	6,496	6,528	△ 32	
	給水収益	5,878	5,878	0	
	その他	618	623	△ 5	有価証券利息の減等
	特別利益	-	27	皆減	
	総費用 B	5,442	5,455	△ 13	
	事務費等	746	733	13	
	維持管理費	1,920	1,934	△ 14	修繕料の減等
	減価償却費等	2,547	2,538	9	償却対象資産の増
	支払利息	229	250	△ 21	企業債償還の進捗による減
	特別損失	-	-	-	
損益 A-B		1,054	1,073	△ 19	
資 本 的 支	資本的収入	1,388	1,243	145	企業債、補助金等
	資本的支出	4,297	4,876	△ 579	
	建設改良費	1,655	2,055	△ 400	
	投資	1,600	1,813	△ 213	
	その他	1,042	1,008	34	企業債償還金等
収支差引		△ 2,909	△ 3,633	724	
資 金	当年度	215	△ 515	730	
	累 積	4,442	4,227	215	
	累積(投資含む)	12,272	11,271	1,001	

【参考：事業別の決算状況】

(単位:百万円)

		駿 豆	榛 南	遠 州	合計
給水市町数		3	2	5	10
有収水量(万m ³)		1,016	535	6,167	7,718
収 益 的 支	総収益 A	1,250	454	4,792	6,496
	総費用 B	808	395	4,239	5,442
	損益 C=A-B	442	59	553	1,054
	前年度損益 D	421	53	599	1,073
	増減 E=C-D	21	6	△ 46	△ 19

3 地域振興整備事業会計

(1) 決算の状況及び今後の見通し

- 令和3年度は、工業団地4区画の引渡しを行い、総収益は3,172百万円、総費用は3,047百万円となり、**損益は125百万円の黒字**となった。
- 藤枝高田は、A工区については当初予定より約5か月早い令和2年12月に藤枝市へ引き渡した。B工区についても、令和3年9月末に引渡しを完了し、令和3年度に土地売却収益を計上した。
- 富士大淵は、令和2年10月に造成工事に着手し、令和3年度は道路整備や工場宅盤の造成を進めた。令和4年度の引渡しを予定している。

(2) 決算の概要

(単位:百万円)

		R3	R2	増減	備考
分譲等区画数		4	4	0	藤枝高田B工区(4区画)
収 益 的 収 支	総収益 A	3,172	1,111	2,061	
	土地売却収益	3,122	1,089	2,033	藤枝高田(6区画)
	その他	1	3	△ 2	
	特別利益	49	19	30	売却済用地補償引当金の戻入
	総費用 B	3,047	984	2,063	
	土地売却原価	2,913	823	2,090	藤枝高田(6区画)
	事務費等	134	139	△ 5	人件費、補助金等の減
	特別損失	-	22	皆減	
損益 A-B		125	127	△ 2	
資 本 的 支	資本的収入	343	922	△ 579	富士大淵 332ほか
	資本的支出	757	837	△ 80	
	うち開発整備費	711	837	△ 126	藤枝高田、富士大淵、牧之原萩間
	うち補助金	25	-	皆増	
	収支差引	△ 414	85	△ 499	
資 金	当年度	△ 497	1,059	△ 1,556	
	累積	7,590	8,087	△ 497	

【参考：開発整備費の状況】

(単位:百万円)

		事業期間	H29~R2	R3	計	備考
藤枝高田	H29~R3		2,633	291	2,924	セミ・オーダー、H30売買契約締結 R2:A工区引渡し、R3:B工区引渡し
富士大淵	R1~R4		878	417	1,295	セミ・オーダー、R2売買契約締結
計			3,511	708	4,219	

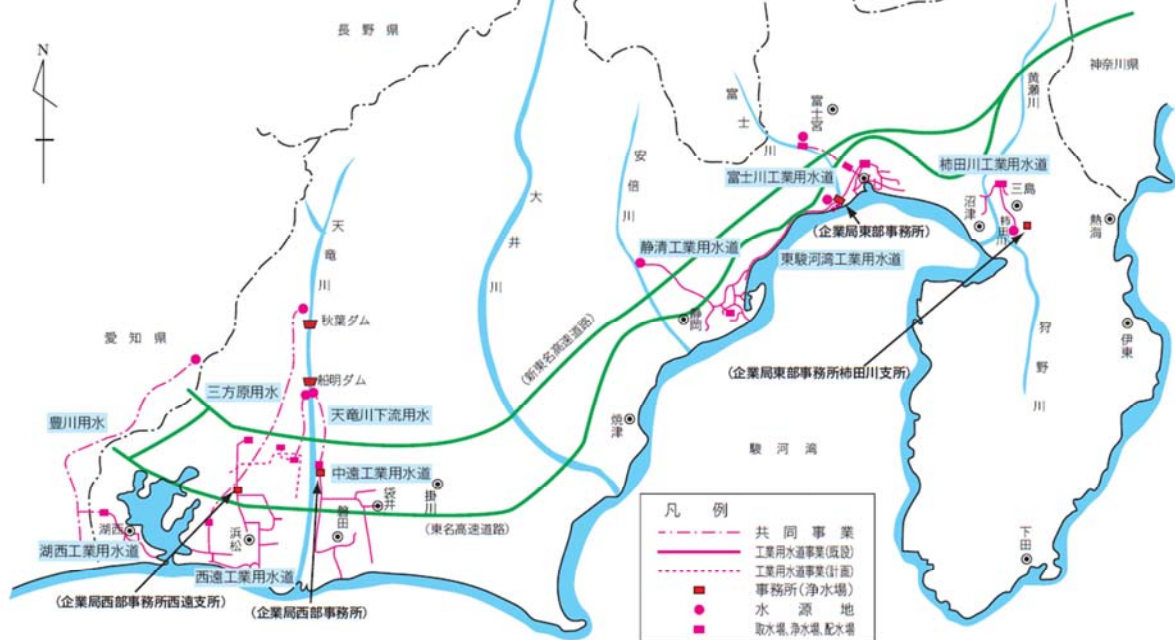
7 工業用水道の経営概況 (R3 決算)

(静岡県企業局経営課)

施設概要

湖西工業用水道 計画給水量(1日最大) 30,690 ^{m³} /日(1市) 現在給水能力 30,690 ^{m³} /日(1市)	西遠工業用水道 計画給水量(1日最大) 241,000 ^{m³} /日(1市) 現在給水能力 172,500 ^{m³} /日(1市)	中遠工業用水道 計画給水量(1日最大) 175,000 ^{m³} /日(3市) 現在給水能力 60,000 ^{m³} /日(2市)	静岡工業用水道 計画給水量(1日最大) 96,000 ^{m³} /日(1市) 現在給水能力 96,000 ^{m³} /日(1市)	※ 東駿河湾工業用水道 計画給水量(1日最大) 1,316,000 ^{m³} /日(2市) 現在給水能力 793,100 ^{m³} /日(2市)	※ 富士川工業用水道 計画給水量(1日最大) 214,000 ^{m³} /日(1市) 現在給水能力 214,000 ^{m³} /日(1市)	柿田川工業用水道 計画給水量(1日最大) 100,000 ^{m³} /日(2市2町) 現在給水能力 100,000 ^{m³} /日(2市2町)
---	---	--	---	--	---	--

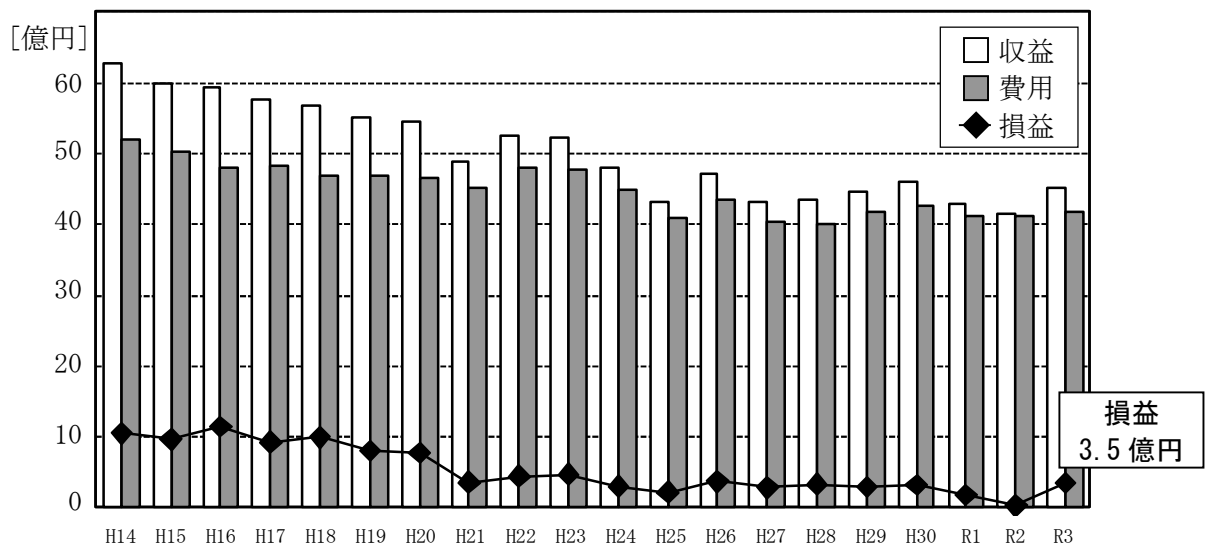
※ R4.3.26 から「ふじさん工業用水道」に事業統合



【給水能力】 1,466,290 m³/日 R4. 3. 25 現在
 【契約水量】 619,239 m³/日 (対能力 42%) R4. 3. 25 現在
 【使用水量】 434,282 m³/日 (対契約 70%) R3 年度実績

1 損益

○工水会計全体の単年度損益は、黒字を維持しているが、ピーク時 (H5 : 12.5 億) から大きく減少。



R3 決算

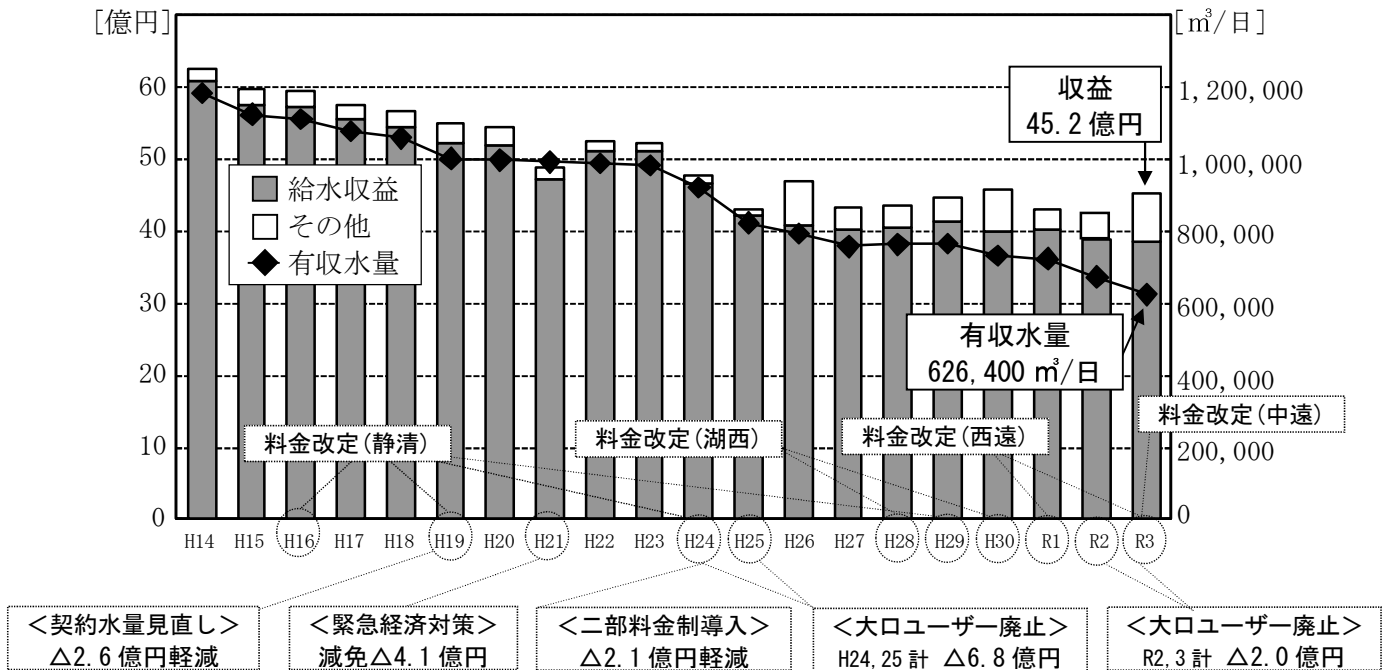
(単位：百万円)

区分	柿田川	富士川	東駿河湾	静岡	中遠	西遠	湖西	合計
収益	400	112	2,049	433	490	828	209	4,521
費用	283	252	2,229	398	423	381	205	4,171
損益	117	△140	△180	35	67	447	4	350

(1) 収益

○収益の大半は、ユーザーからの料金収入による給水収益。

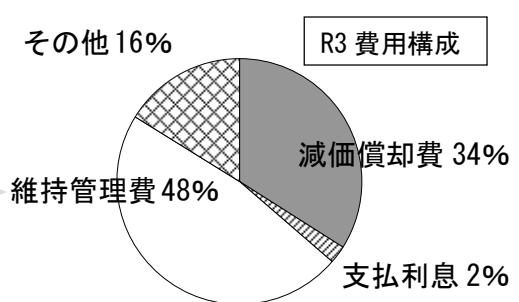
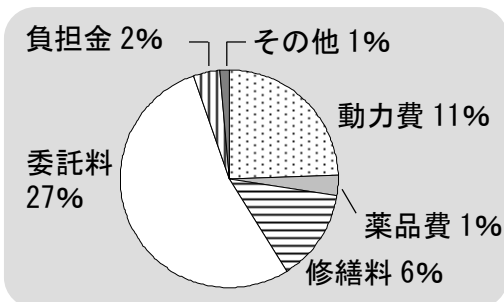
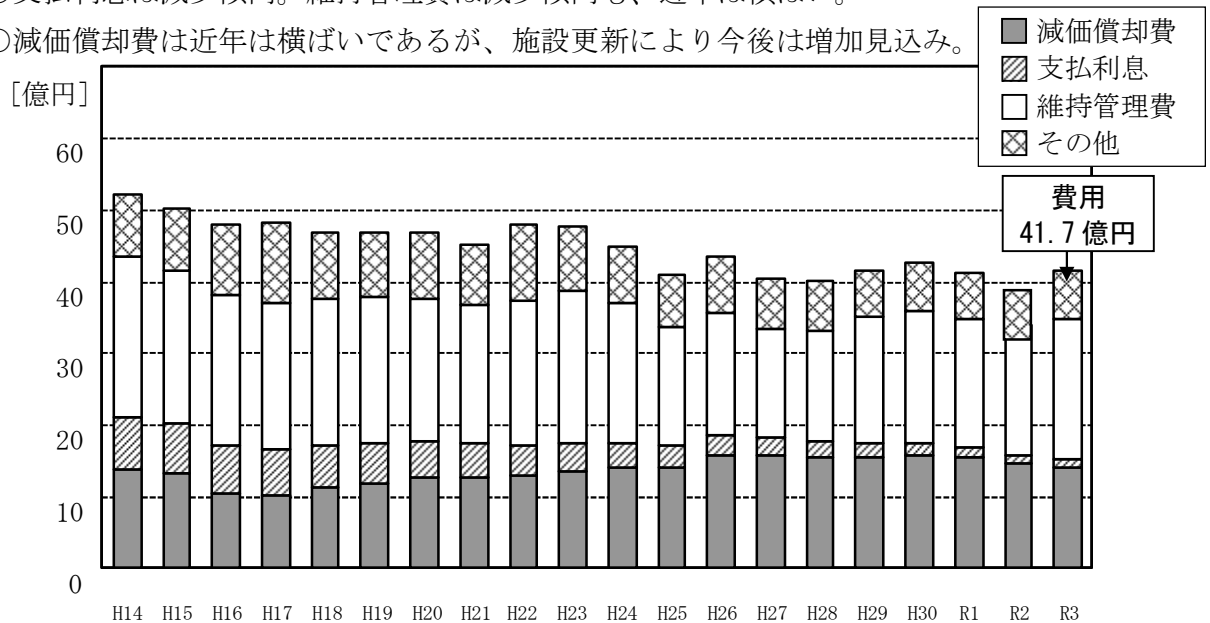
○給水収益の基礎となる有収水量は、企業の撤退等により減少傾向。



(2) 費用

○支払利息は減少傾向。維持管理費は減少傾向も、近年は横ばい。

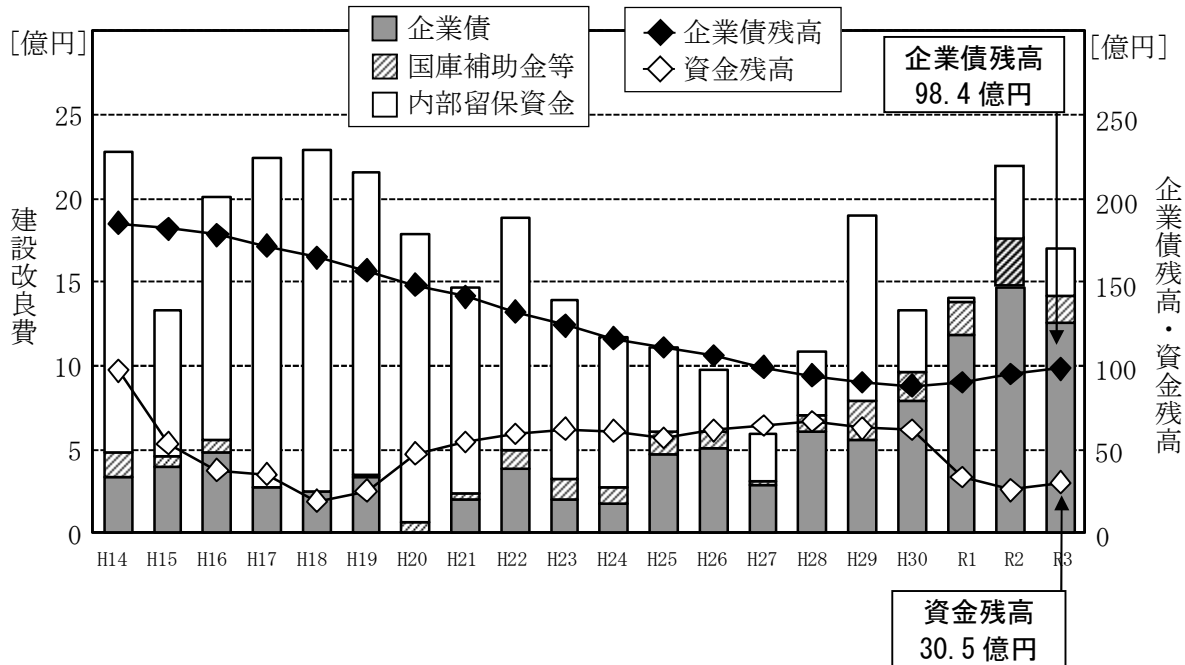
○減価償却費は近年は横ばいであるが、施設更新により今後は増加見込み。



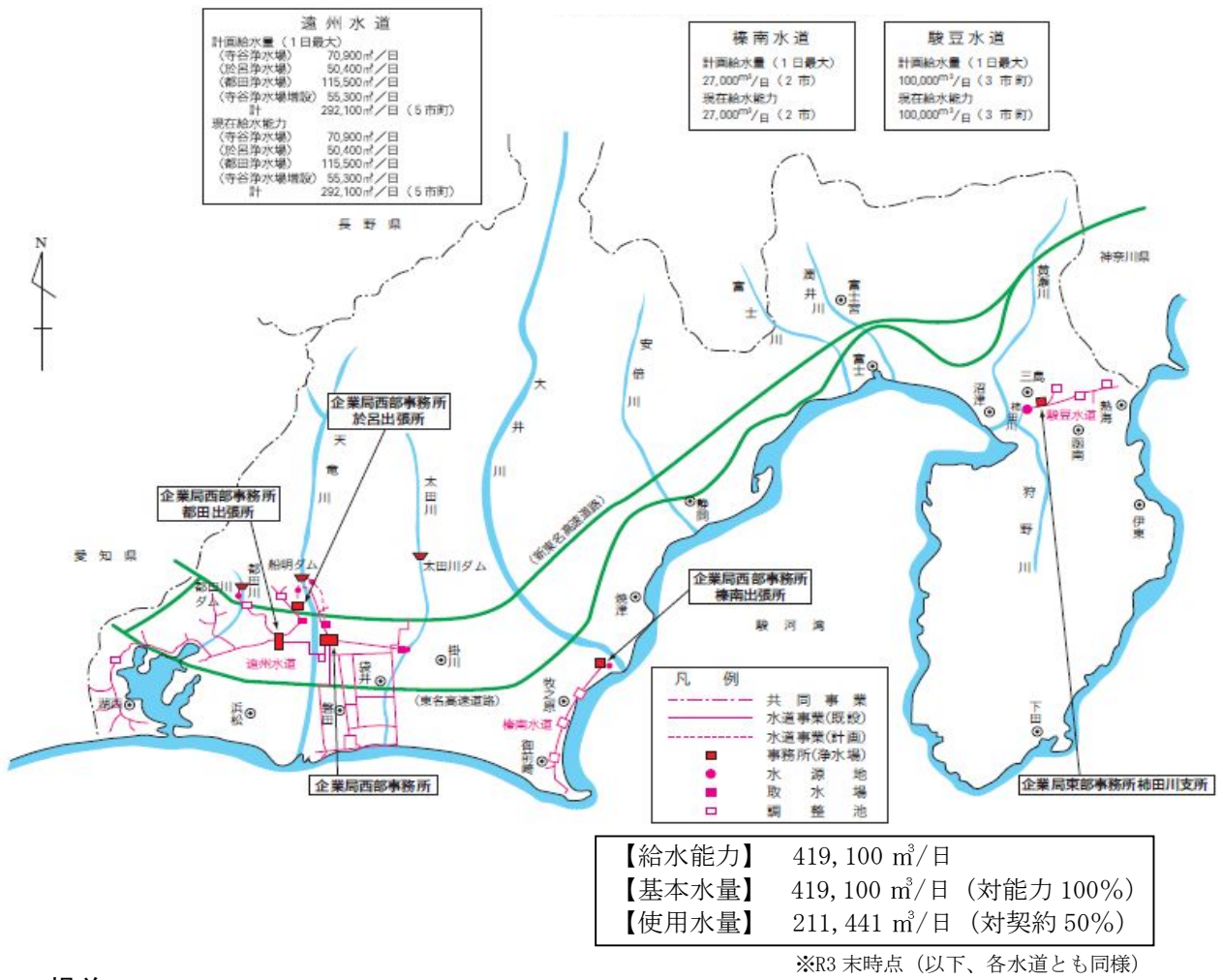
2 建設改良費と企業債残高・資金残高

○H13～H22年度頃にかけては、内部留保資金による建設改良工事を多く実施していることから、資金残高・企業債残高ともに減少。近年は企業債の財源を充当した建設改良工事の実施により、企業債残高は増加傾向。

○H20年度以降は、新たな建設改良投資の減少に伴い企業債残高は減少傾向、資金残高は増加傾向にあった。積極的な資金運用のため、H30～R3年度と投資有価証券を購入した。



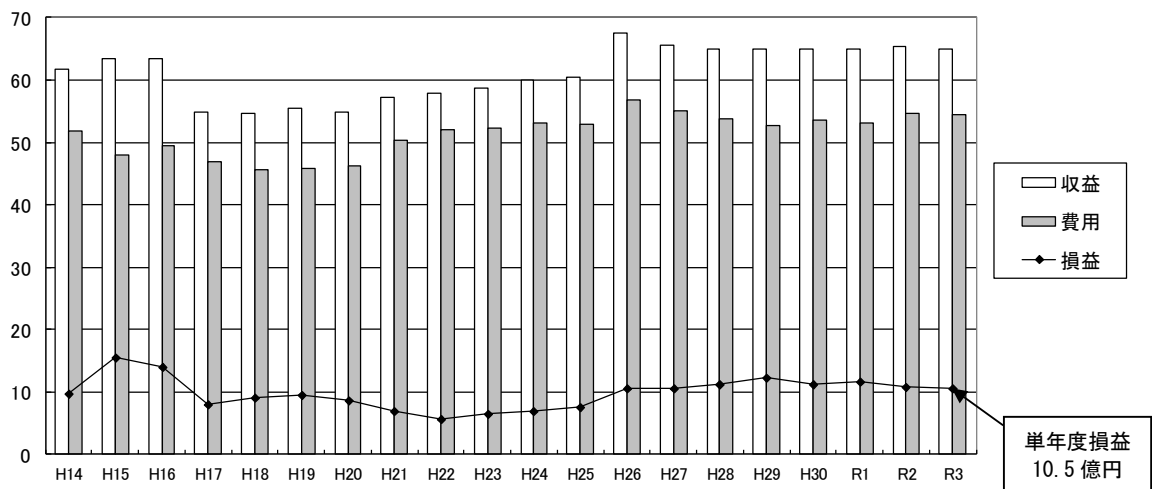
経営状況（水道事業全体）



1 損益

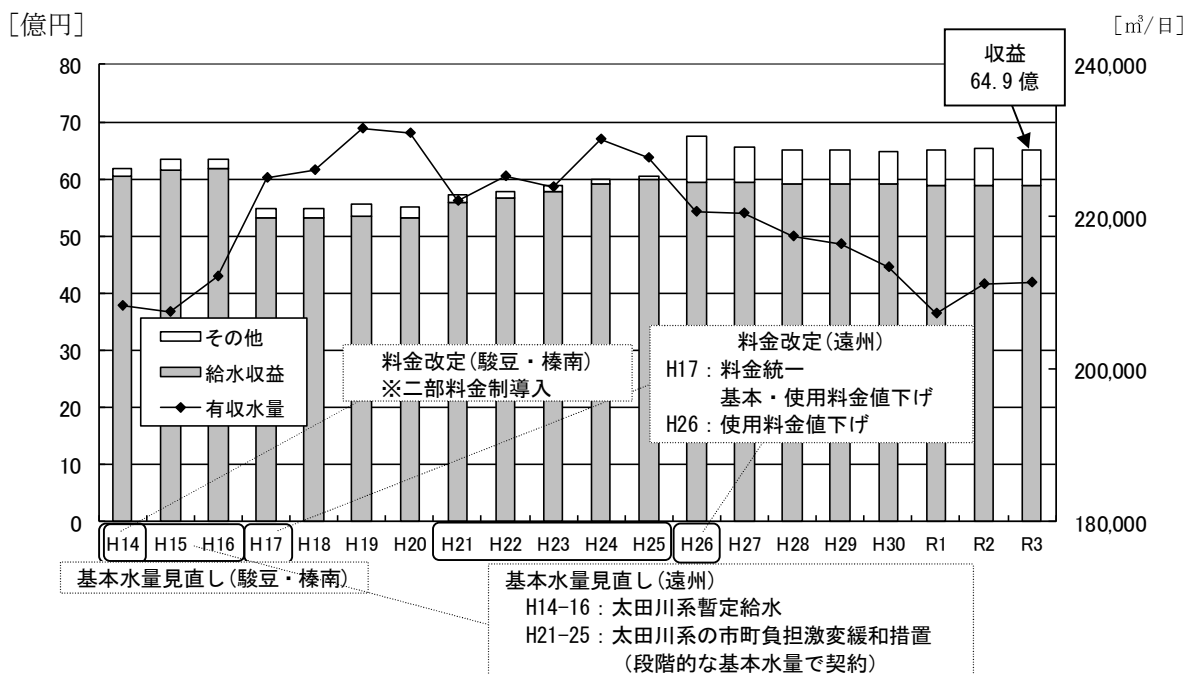
- 水道会計全体のうち、遠州水道は収益ベースで7割以上の規模。
- 損益は概ね7～12億円の黒字を維持。

[億円]



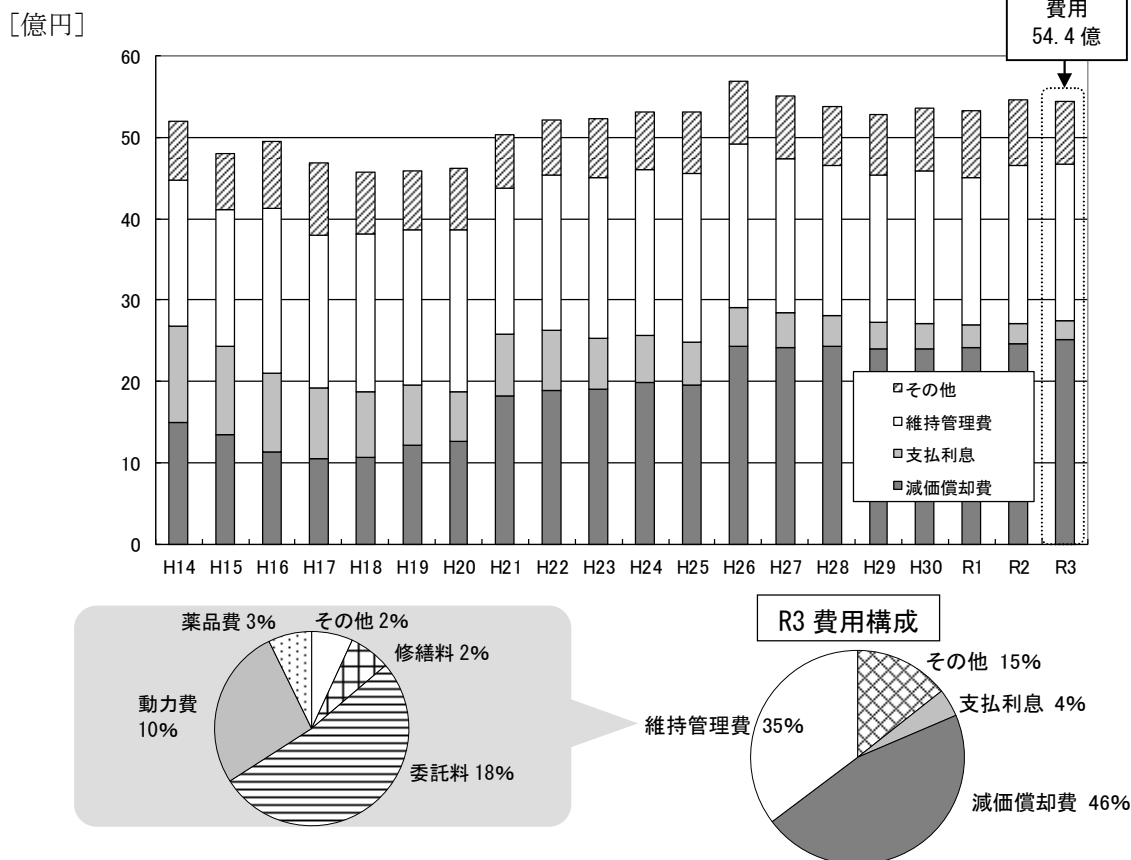
(1) 収益

- 収益の大半は、市町からの料金収入による給水収益。
- 給水収益の基礎となる有収水量は、平成 25 年以降減少が続く。
- 給水収益は、概ね 55～60 億円で推移。



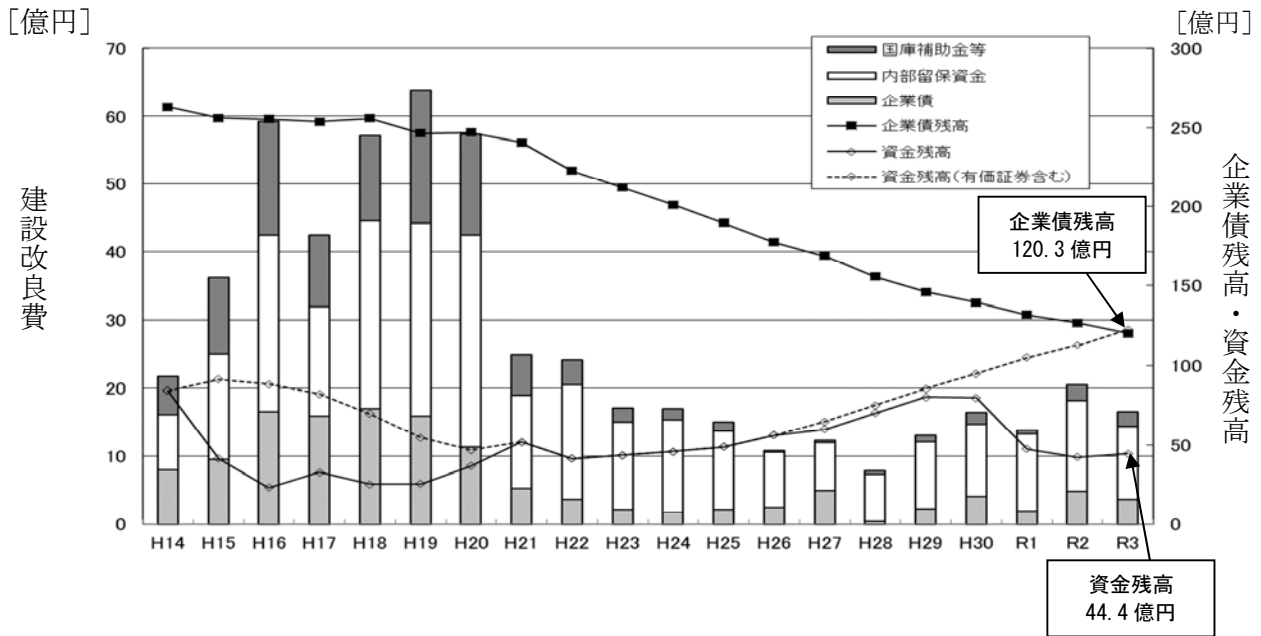
(2) 費用

- 支払利息は、減少傾向。
- 減価償却費は増加傾向にあり、今後も増加する見込み。



2 建設改良費と企業債残高・資金残高

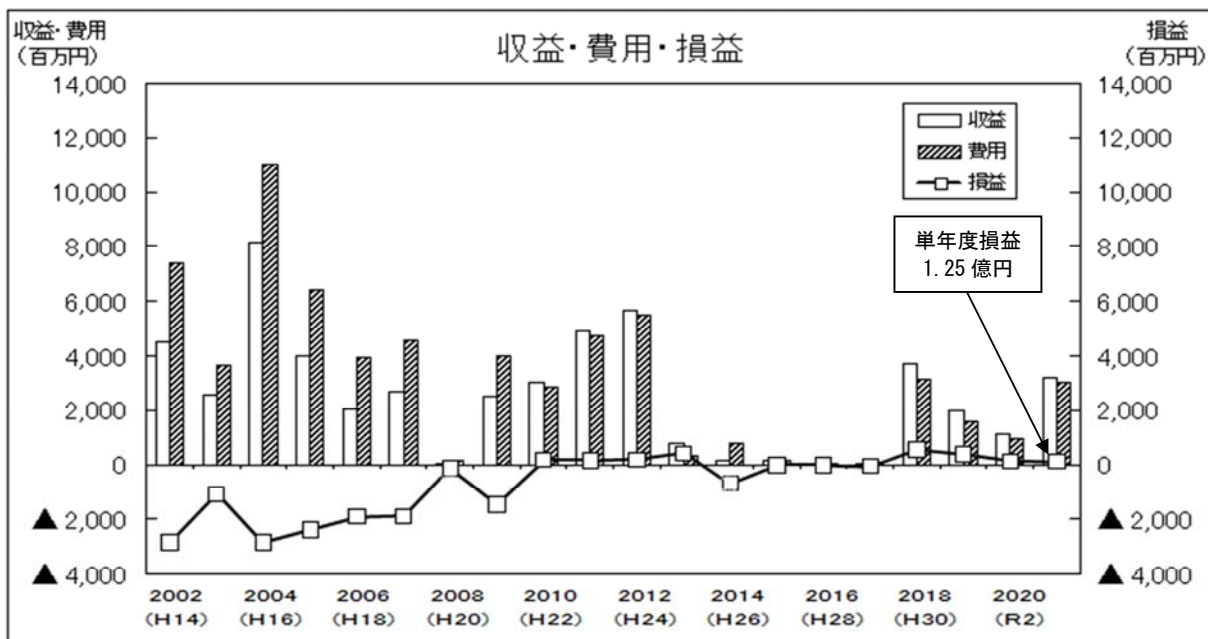
- 平成 20 年度までは国庫補助金等や企業債を財源に充当し、多額の建設改良工事を実施。
- 平成 21 年度以降は建設改良投資の減少に伴い企業債残高は減少傾向。一方資金残高（有価証券含む）は、増加傾向。



経営状況（地域振興整備事業会計）

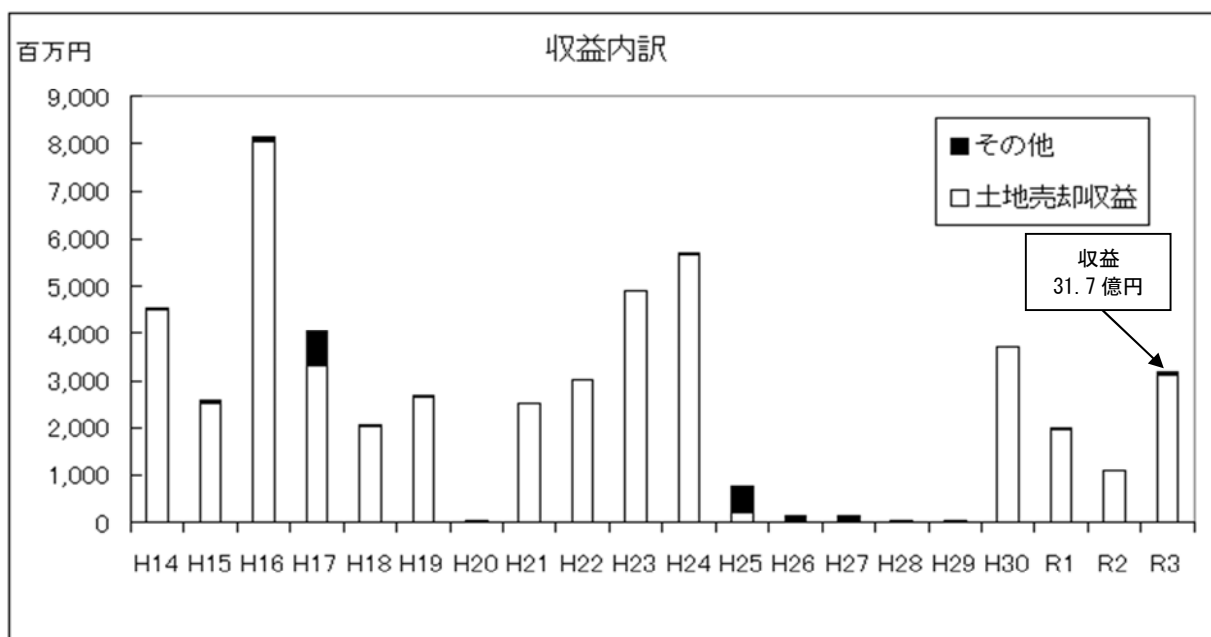
1 損益

- 損益は、バブル崩壊後しばらくの間は原価を割った資産売却により赤字基調で推移。
- オーダー、セミ・オーダーメイド方式導入により団地単位に利益を生む仕組みに改善。
- レディーメイド方式の「富士山麓フロンティアパーク小山」は内部留保資金の範囲内で実施。
- 令和3年度の損益は125百万円の黒字。



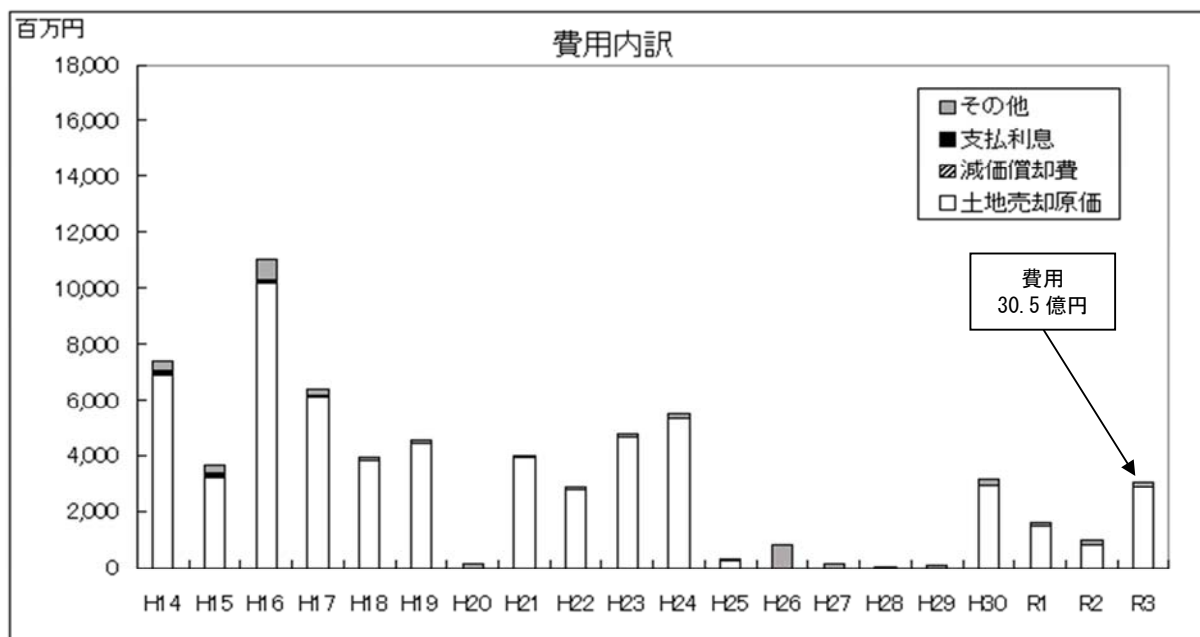
(1) 収益

- 収益の大半は工業用地等の土地売却収益。
- 平成26～29年度は、売却用の工業用地がなく、土地売却収益の計上なし。
- 平成30～令和3年度は、工業用地売却による土地売却収益を計上。



(2) 費用

- 費用の大半は工業用地等の土地売却原価。
- 平成 26～29 年度は、売却用の工業用地がなく、土地売却原価の計上なし。
- 平成 30～令和 3 年度は、工業用地売却による土地売却原価を計上。



2 建設改良費と資金残高・企業債残高

- 平成 26 年度以降の建設改良費は、「富士山麓フロンティアパーク小山」等の工業用地の造成。
- 資金残高は平成 22 年度以降 40～60 億円で推移していたが、「富士山麓フロンティアパーク小山」の売却（完売）等により 80 億円まで増加した。
- 企業債及び借入金残高は、平成 20 年度までに全て償還し、現在なし。

